

「自然体験活動指導者養成研修会」

★事業の概要★

事業のねらい

小学校の教育課程に取り入れられた自然体験活動を中心とする長期集団宿泊活動が円滑に実施されるように、計画立案から運営評価まで、全体をコーディネートできる指導者を養成する。

期 日

平成25年1月12日（土）～ 1月14日（月）〈2泊3日〉

会 場

国立大雪青少年交流の家

対 象 者

小学校が実施する自然体験活動を支援する意志がある者（18才以上）

参加者数：参加募集人数

26名（参加者内訳：一般15人、大学生11人）：20名

協 力

独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立日高青少年自然の家
北海道立青年の家

講 師

川嶋 直 氏（NPO法人自然体験活動推進協議会理事）
山本 幹彦氏（NPO法人当別エコロジカルコミュニティ代表理事）
前田 和司氏（北海道教育大学岩見沢校教授）
吉澤 正樹氏（大雪消防組合美瑛消防署救急係長）
宗像 宏学氏（大雪消防組合美瑛消防署救急係主任）
前田 晃 氏（大雪消防組合美瑛消防署救急係主任）
国立大雪青少年交流の家職員

日 程

	12:00～		12:30～		13:30～		17:30～	18:30～	19:30～
1/12 (土)	開 会 式		①体験活動の指導法		②安全管理		夕 食	②安全管理	③学校教育における 体験活動の意義
1/13 (日)	7:15～ つどい	7:30～ 朝食	8:30～ ④教育課程と体験 活動の関連性	10:30～ ⑤自然体 験活動の 技術	12:30～ 昼 食	13:30～ ⑤自然体験活動の技術	16:30～ ①体験活動 の指導法	17:30～ 夕 食	18:30～ ①体験活動の指導法
1/14 (月)	7:15～ つどい	7:30～ 朝食	9:00～ ⑥プログラムの 企画立案	12:00～ 昼 食	13:00～ ⑥プログラムの企画立案	15:00～ 閉 会 式			

★プログラム紹介★



「安全管理」

救命講習を受け、応急処置の方法やAEDの使用方法について学び、普通救命の資格を取得した。

また、冬の日常生活も含めた野外活動で起こりうるケガなどについて学び、子どもを安全に生活させるためのポイントを学んだ。



「学校教育における体験活動の意義」

「子どもたちに今必要な力とは何か」「その力を身につけさせるためにはどんな活動をしたら良いのか」「体験をさせることはなぜ必要なのか」について学んだ。実際の学校現場の話もあり、小学校の様子について理解を深めることができた。



「教育課程と体験活動の関連性」

学習指導要領や教育課程について、学校教育の中で体験活動がどのように取り込まれているか学んだ。学校現場で取り組まれていることは何を元に行っているかについて学ぶ機会となった。



「自然体験活動の技術」

冬の自然の中で、どのような活動ができるか、実際に参加者がアクティビティを企画し、体験をとおして、基本的な知識と技術を学んだ。初めて体験することもあり、参加者にとって良い経験を積むことができた。



「体験活動の指導法」

「自然体験活動指導者」を目指し、2日間で学んだことについて、シートにまとめ、全体で意見交換を行った。参加者同士、活発に意見交換ができ、良いふりかえりの時間となった。



「プログラムの企画立案」

入門コースとアドバンスコースに分かれ、企画立案の方法を学び、計画を立てた。どちらのコースも、子どもが喜ぶ顔を思い浮かべながら、楽しく学べる活動を仲間と協力しながら計画した。

企画・運営のポイント

- ① 小学校の現状を理解しスムーズに企画立案していけるようにプログラム展開の工夫をした。
- ② 参加者の年齢、経験値がさまざまであることから、ここが指導者としてスキルアップできるように入門コースとブラッシュアップコースのプログラムを設定した。
- ③ 支え合いと活気のある社会を作るという「新しい公共」を意識し、参加者自身が自分たちで学んでいけるような展開や環境づくりに努めた。

事業を終えて(成果・課題)

- ① 事前調査から得た情報をもとに、参加者のニーズに応えるプログラムデザインとし、参加者のレベルに合わせた研修を提供した結果、分かりやすかったという意見を多く聞くことができた。
- ② 資格を取得した参加者の、今後の活躍の場、ブラッシュアップの場をどのようにつくっていくのか、関係機関と連携しながら展開、普及していく必要がある。